

平成22年度 利用者アンケート調査結果

利用者アンケート調査の概要は、以下のとおり

配布方法：バス車内に調査員が乗車し、第2便から第5便までの利用者に調査票を配布。

回収方法：バス車内または、市役所に設置の応募箱へ投函してもらった。

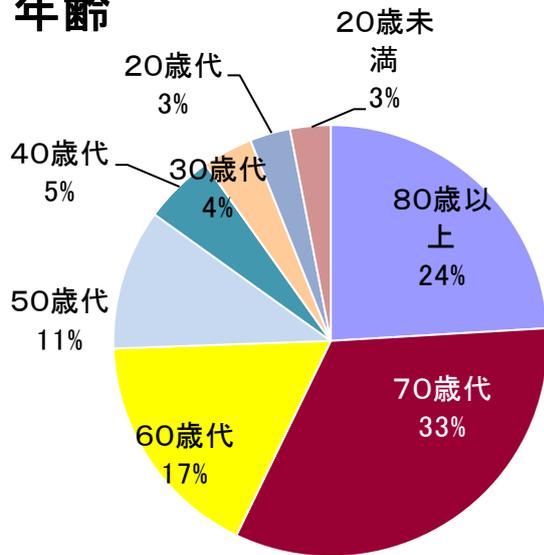
実施日：平成22年12月9日（木）

	配布枚数	回収枚数	
西ルート（右回り）	69枚	38枚	
西ルート（左回り）	52枚	31枚	
東ルート（右回り）	52枚	34枚	
東ルート（左回り）	67枚	31枚	回収率
合計	240人	134枚	55.8%

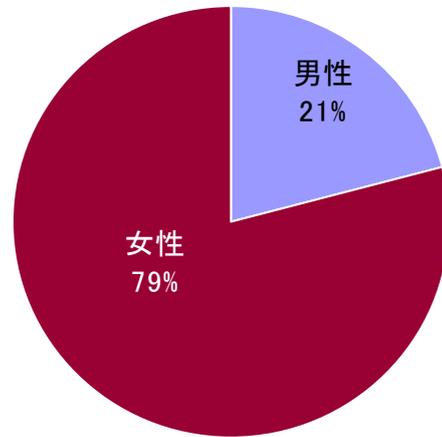
平成23年2月 尾張旭市

1 集計結果

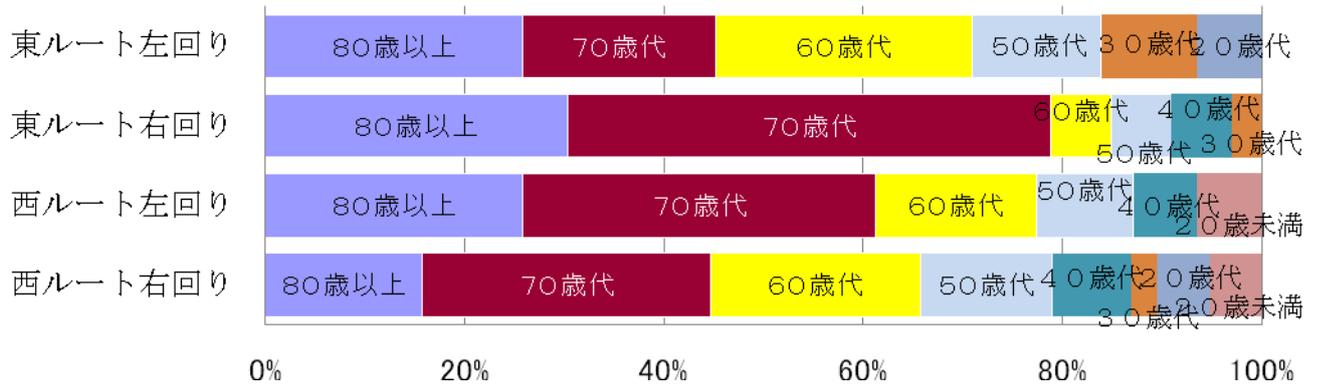
年齢



性別

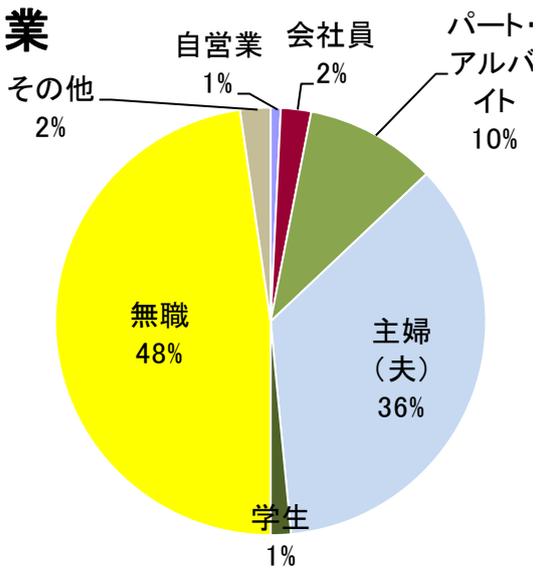


ルート別 年齢

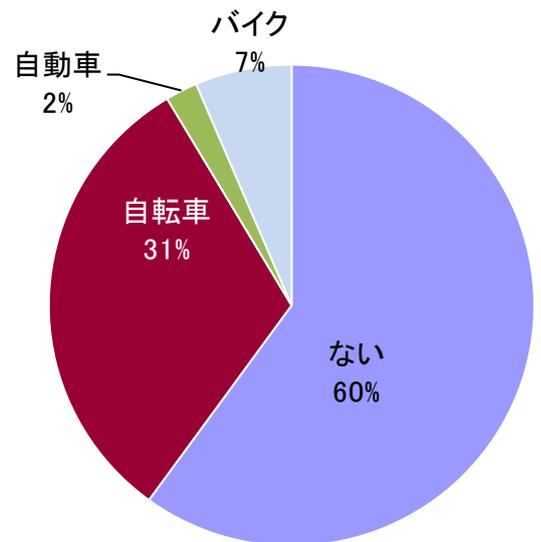


- ・年齢について、60歳代以上のかたが7割以上であったが、30歳代以下の若年層の利用もみられる。
- ・性別について、女性の利用者が8割近くとなっている。
- ・ルート別の年齢では、東ルート右回りにおいて70歳代以上の利用者が8割に近く高齢者の利用が最も多いが、西ルートでは右回り、左回りともに20歳未満の利用がみられる。

職業

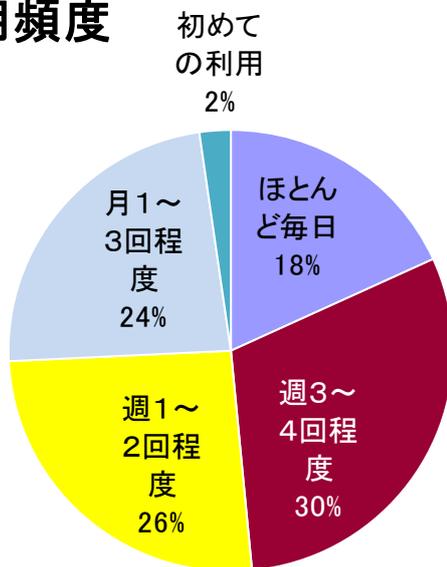


自ら運転して使える交通手段

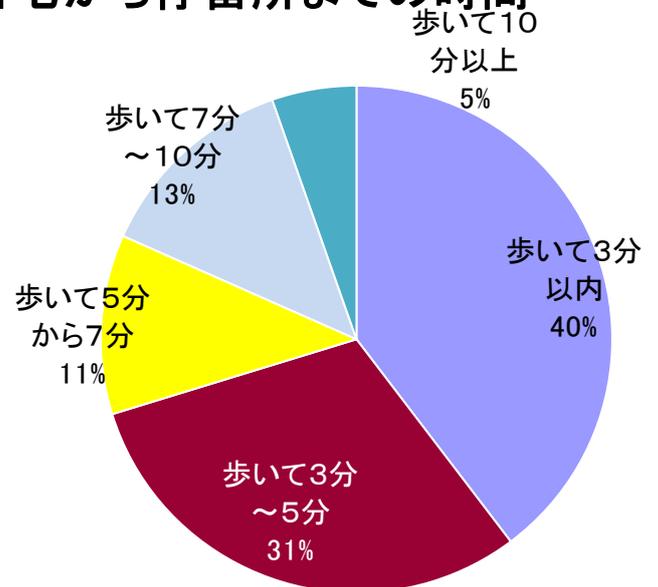


- ・職業について、主婦(夫)または無職と答えた人の割合が合わせて84%となっている。
- ・自ら運転して使える交通手段について、ない、または自転車のみと答えた人の割合が合わせて91%となっている。

利用頻度

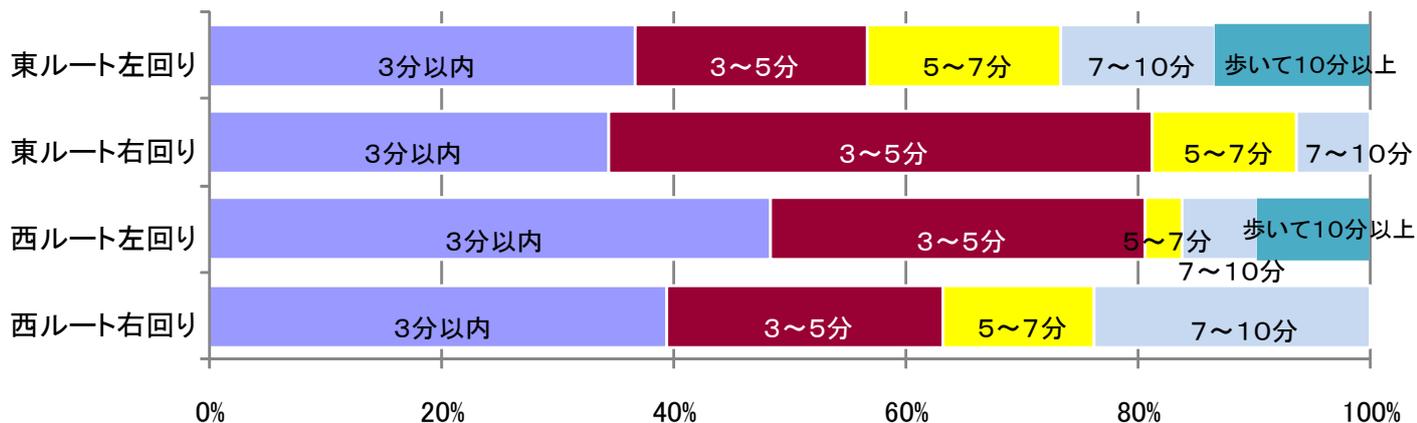


自宅から停留所までの時間



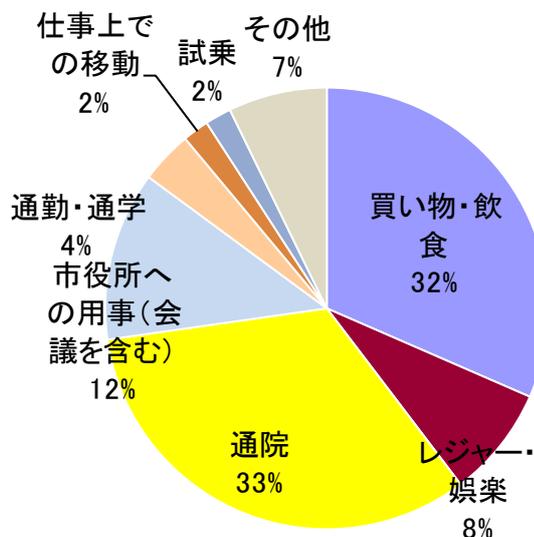
- ・利用頻度について、初めての利用と答えたかたはわずか2%となっている。
- ・自宅から停留所までの時間について、歩いて3分以内と答えたかたが40%と最も多く、歩いて5分以内を合わせると71%となっている。

ルート別 自宅から停留所までの時間



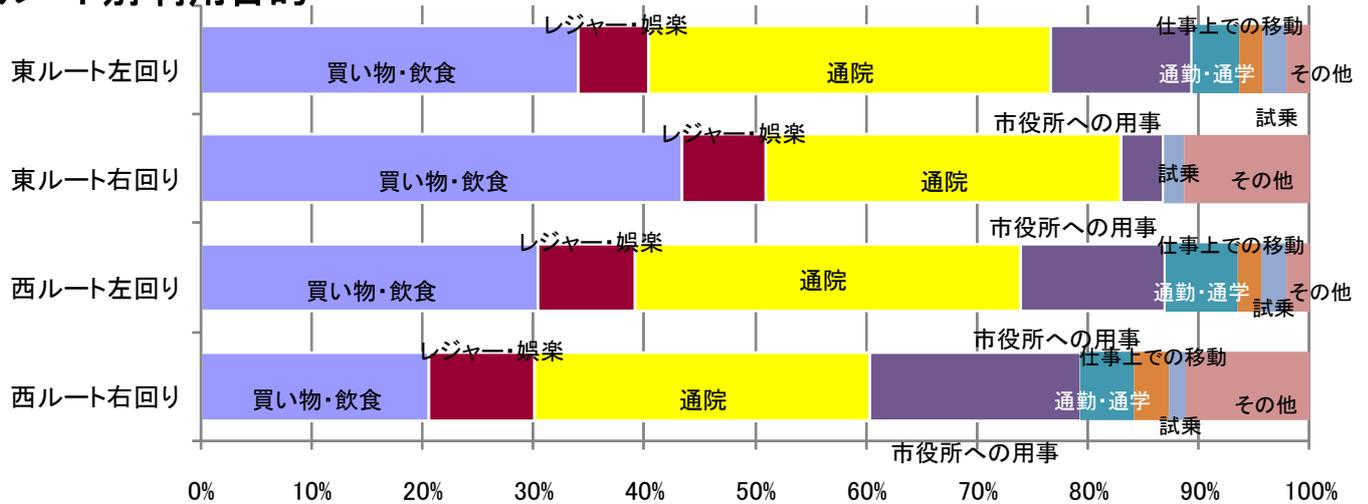
・ルート別の自宅から停留所までの時間について、西ルートと東ルートでは目立った違いはみられない。

利用目的



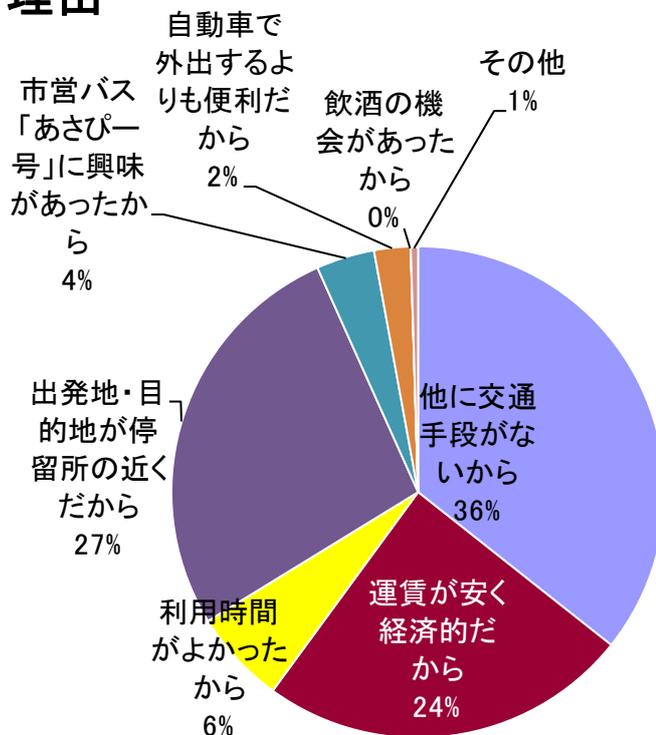
- ・利用目的について、通院と答えたかたと買い物・飲食と答えたかたを合わせると65%となっている。
- ・一方で、仕事上での移動や通勤・通学と答えたかたも存在している。

ルート別利用目的



- ・ルート別の利用目的では、高齢者の利用が最も多かった東ルート右回りにおいて、買い物・飲食、通院の割合が最も高く、通勤・通学、仕事上での移動などのための利用はみられない。
- ・西ルートでは、買い物・飲食のための利用が東ルートと比較して少なく、市役所への用事のための利用が多い。
- ・両ルートとも、通院への利用者が多くを占めている。

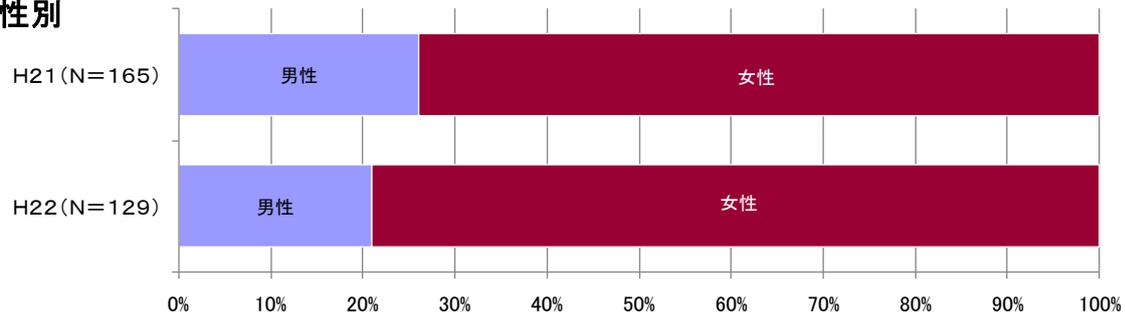
利用理由



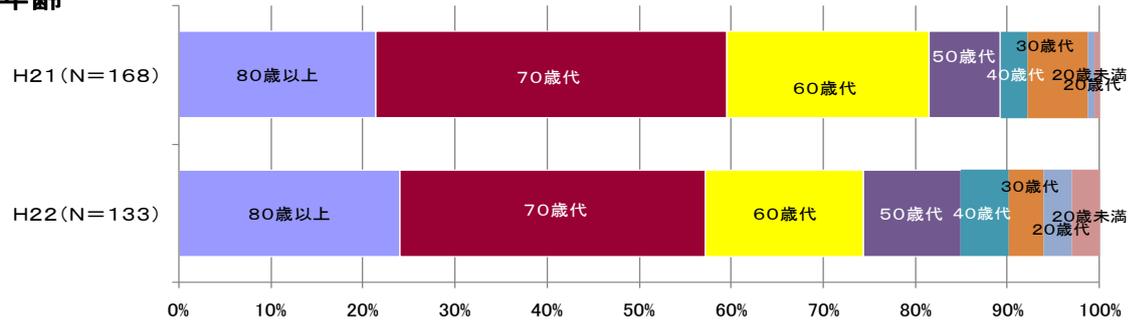
- ・他に交通手段がないから、と答えたかたの割合が36%と最も多く、続いて、出発地・目的地が停留所の近くだから、運賃が安く経済的だから、の順番に続いている。

参考 平成21年度実施利用者アンケート集計結果との比較（抜粋）

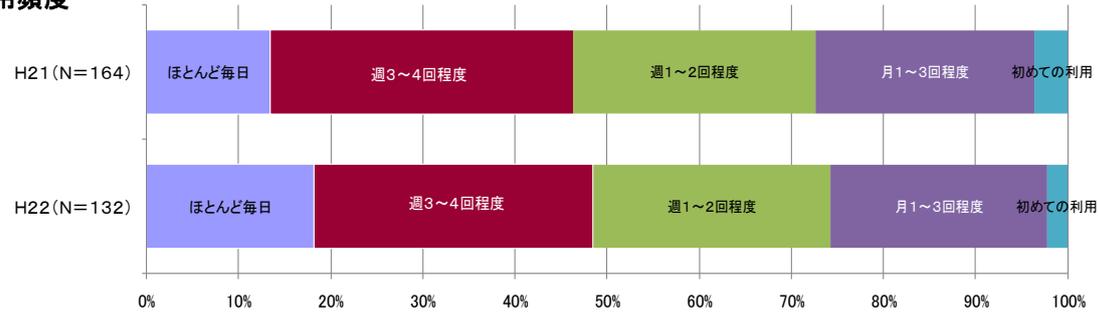
性別



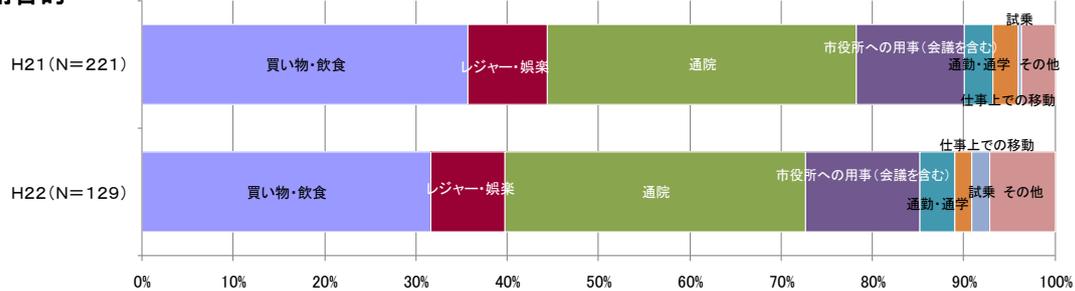
年齢



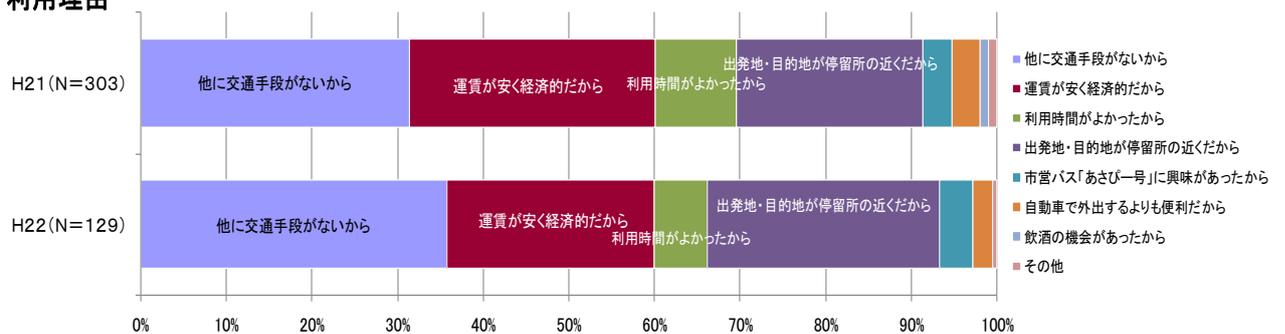
利用頻度



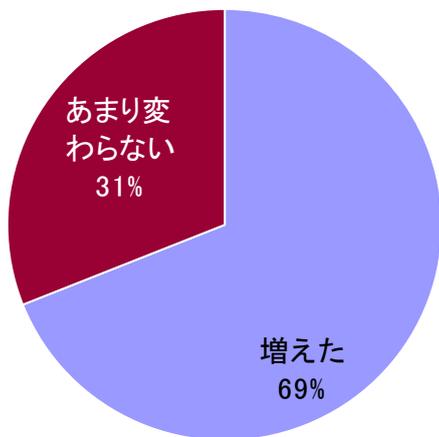
利用目的



利用理由

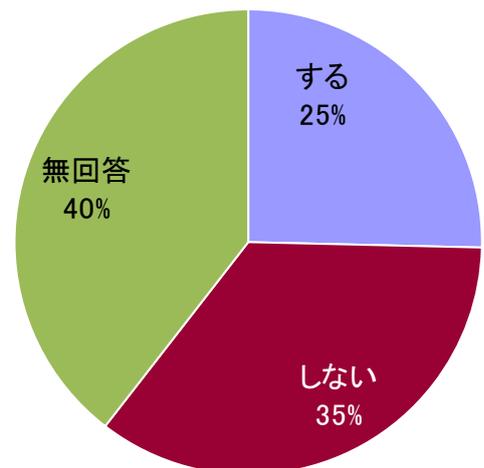
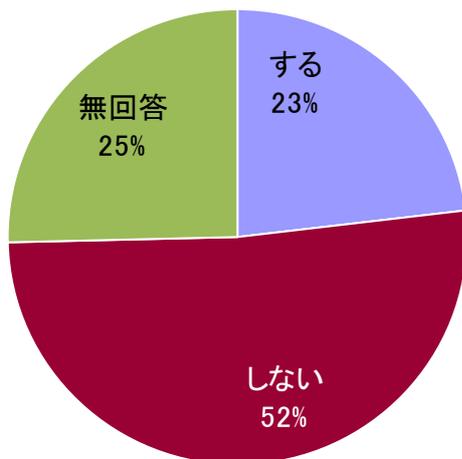


外出機会



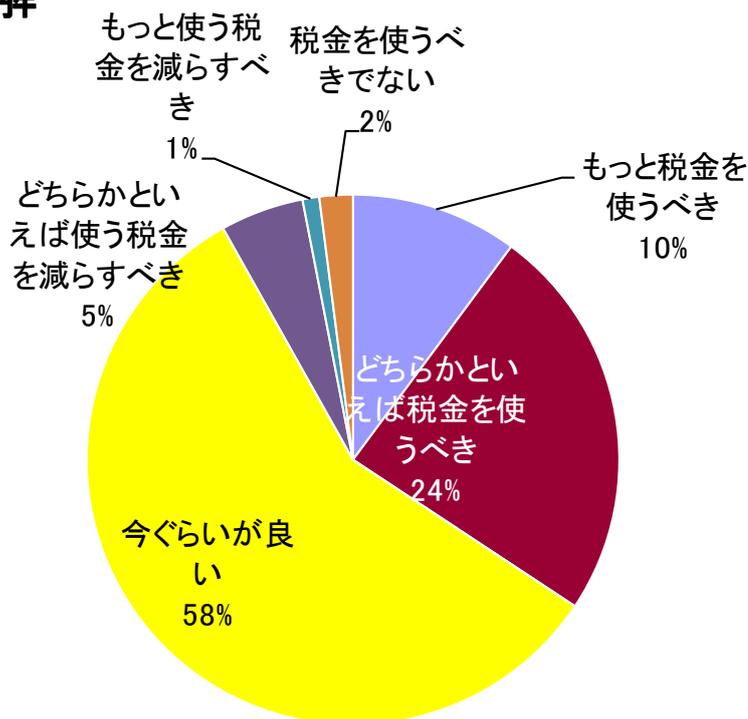
- ・あさび一号の運行によって、利用者の69%は外出機会が増えたと答えている。
- ・昨年度までの調査でみられた外出機会が減ったと答えた人はみられない。

あさび一号の別のルートへの乗継 他の電車・バスへの乗継



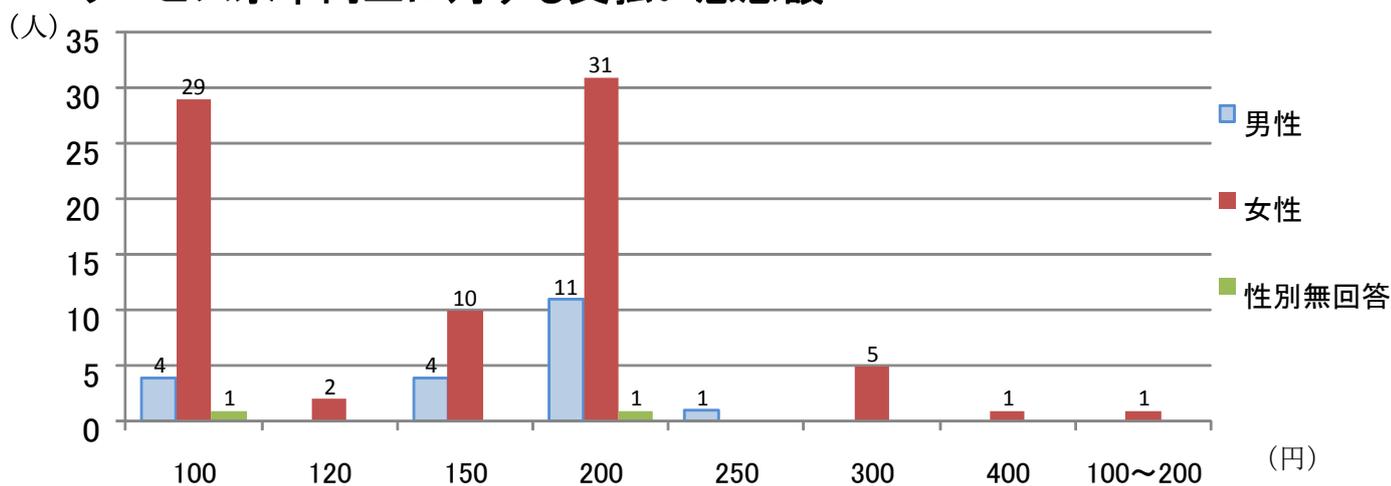
- ・あさび一号の別のルートへの乗継については23%の人がする、と答えている。
- ・他の電車・バスへの乗継については、25%の人がする、と答えており、あさび一号の別のルートへの乗継よりもすると答えた人の割合が高い。

税金投入理解



- ・もっと税金を使うべき、どちらかといえば税金を使うべき、と答えた人を合わせると34%となっている。
- ・税金を使うべきでないと答えた人も存在する。

サービス水準向上に対する支払い意思額



- ・200円と答えた人が最も多い。
- ・100円未満の金額を答えた人はいない。

最終目的地との往復手段(帰り)

行き	帰り	あさびー号	自動車	タクシー	電車	徒歩	あさびー号 以外のバス	その他	あさびー号 タクシー	あさびー号 自転車	あさびー号 電車	あさびー号 電車 徒歩 あさびー号以 外のバス	あさびー号 徒歩	あさびー号 以外のバス	タクシー 電車	タクシー 徒歩	総計
		32	1	2	1	4	2	1	2	1	1	1	1	1	1		
	あさびー号	2															2
	自動車																1
	電車																1
	徒歩	2				1											4
	あさびー号以外のバス						1										1
	あさびー号 タクシー											1					1
西ルート	あさびー号 電車	1			1										2		4
	あさびー号 徒歩		1										2				3
	あさびー号以外のバス																1
西集計		37	2	2	2	5	3	1	2	1	2	1	3	1	2	2	64
	あさびー号 自動車	34	1	2	1	3											41
	タクシー																1
	自転車	1															1
	自転車																1
	徒歩	4															4
	あさびー号以外のバス																1
	その他	1															1
東ルート	あさびー号 タクシー								1								1
	あさびー号 電車									1							1
	あさびー号 徒歩												1			1	2
	あさびー号以外のバス																1
東集計		40	1	2	1	3		1	1	2			1				53
総計		77	3	4	3	8	3	1	3	1	4	1	4	2	2	1	117

- ・行き、帰りともにあさび一号のみを利用すると答えた人が最も多い。
- ・回答のうちの半数以上は、あさび一号と他の交通手段を組み合わせ利用しているとなっているが、目立って利用数の多いの交通手段の組み合わせはない。
- ・行きにあさび一号、帰りに徒歩、または行きに徒歩で、帰りにあさび一号を利用すると答えた人が比較的多く、買い物などに歩いて行き、荷物のある帰りはあさび一号を利用するなど、徒歩とバスを使い分けている人もいる。

2 まとめ

○ 利用者の特徴

各ルート全般に、60歳以上の高齢の女性の利用が多い。60歳以上の女性は、自ら運転できる交通手段がある可能性が低いため、あさび一号を利用されるかたの割合が高くなっていると考えられる。また、交通手段を持っていないことのほかに、運賃の安さや出発地・目的地が停留所に近いことを利用理由として多くのかたが答えており、その利用目的は通院、買い物・飲食が多いことから、高齢者の日常生活における「足」としての利用がされているといえる。

一方で、割合としては少ないものの、30歳代以下の若年層の利用者もみられ、通勤・通学や仕事上での移動のために利用していることから、今後はこうした世代の需要についても調査する必要があるものと考えられる。